

#### 4か月間の経験

国際学部 2年 中国語選択 21014081 永井 琢也

2015年8月30日、私は日本から約2340キロ離れた中国、北京へ約4か月間の語学留学へ行った。しかし、成田空港で、飛行機を待っている時、飛行機の離陸を2時間遅らせるというアナウンスが入り、一緒に留学へ行く12人の仲間と動揺をしていたことは今でも覚えている。ちょうどその日は、北京で世界陸上が終わり、北京を去る人が多かったから、北京空港が混雑したのだろう。離陸の時間が徐々に近づいてきて、私は初めての海外留学なので、期待と不安でいっぱいになった。3時間10分のフライトで、次の日の午前0時に私たち12人は北京に到着した。入国審査や荷物の手続きを終え、空港の外に出たとき、中国に来たという実感がした。また、私は新潟組のリーダーとして、みんなをまとめなければならないという責任を感じていた。以下からは私が北京で生活した4か月の出来事や経験、感じたことを述べていきたいと思う。



生活面で体験した事や感じたことは多くある。

現地の大学院生で、私たちの面倒を見てくれる方と一緒に、私たちが住む蘭恵公寓（学生寮）のそばにある、18 食堂で昼食をいただいた。中学は世界で最も人口が多い国でとても

有名である。しかもその中国の首都である北京であるため、人が非常に多かった。食堂自体は日本と比べ、きれいではなかった。4か月を通して学区内にある食堂をいくつか周ったが、どこもあまりきれいとは言えなかった。食事を終えて、学区外にある銀行へ行くために、学校の外へ出た。外の景色は、店の看板などの文字がすべて中国語である以外、差はそんなになかった。歩いてすぐの所に銀行がある。銀行で何人かの人が日本円を人民元に両替をした。その時、両替をしている様子を後ろから眺めていたら、銀行員の態度があまりよくなかったことに驚いた。日本では見たことのない接客には本当に驚いた。両替が終わるまで私は友達数人と外で待っていたら、ビルの上から、まだ火が消えていないタバコの吸い殻が降ってきた。このことにも衝撃を受けた。現地の大学院生に話を聞いたところ、この様なことは中国では当たり前と言っていた。やはり、日本と似ていても、文化や習慣の違いはとても大きいと感じた。それからは、高い建物のそばで待機するときは、上を注意するようにした。次の日は午前中に携帯電話を買い、学区内を探索した。その日の昼に、ルームメイトのアメリカ人が来た。その日は時差ボケのためずっと寝ていたから、極力部屋にはいないようにした。向かいの部屋の広瀬のルームメイトもその日に来た。ルーミア人だった。その人と日本のアニメや文化などの話をしたが、日本のアニメは世界でも非常に有名で、日本はいろいろな面でとても優れていると、日本にいた時よりも感じた。次の日に携帯電話のSIMカードを買いに、蘭恵公寓のそばにある小さな電気屋のような所へ行った。SIMカードを無事に購入したと思ったら、店の中で店員と現地の大学院生がもめていた。中国語で何をいっているかは全く分からなかったが、日本人というフレーズが聞こえた。おそらく中国人は日本人がお金を持っているという印象があるため、少し多めにとろうとしていたのだろう。このことに私は驚きよりも恐怖を感じた。なので、外に遊びに行くときに「何人ですか？」と聞かれても、日本人ということは一度もなかった。コンビニやスーパーへ生活に必要なものをそろえるために買い物へ行ったが、日本にある品は多くあった。なので、日用品をそろえるのにはあまり苦労はしなかった。留学期間は生活用品が足りなくて困ったことはあまりなかったが、日本のものと比べたら質が全く違う。しかし、日本と比べて大半のものが安く手に入るのも、お金の心配をすることもなかった。学区内や学区外のレストランにも度々行っていた。日本より値段は安いし、量も多かった。しかし、店員の態度はあまり良くなかった。味も日本の方が良いが、食べれないことはなかった。このようなことを日本と比べながら生活していくことも楽しかった。ルームメイトとは、最初の1か月間は、文化や習慣の違いになれなくて、お互い苦労したと思う。部屋のクーラーの設定や水回りを使った後、寝る時間など全く合わなくて、私は何回か体調を崩した。しかし、ルームメイトとコミュニケーションを取りながら、お互いにあった生活を築くことができた。私は中国語をうまく話すことができず、片言になったが、ルームメイトが理解してくれたおかげで、不自由なく生活を送ることができた。休みの日にはタクシーや地下鉄、バスなどを利用して多くの観光地や都市に遊びに行った。タクシーは運転が荒く、慣れるまでは苦痛であった。バスや地下鉄も人が多く、すぐにはなれなかった。

だが、運賃はとても安い。タクシーでも、ある程度遠くまで行っても、日本円で 1000 円するかしなやかであった。バスや地下鉄もかなり安く、バスは日本円で 100 円くらいしかかからなかった。しかも首都だから、時間を気にする事もなかった。交通の面でもお金はかからなかった。だが PM2.5 の影響はとても大きかった。毎日空気が汚かったわけではないが、汚い日は、本当に汚かった。だが、外に出てもマスクをしている人はあまりいなかった。自分自身も空気の汚染にはすぐ慣れた。下の写真は同じ時間に、同じ場所で取ったものである。この差は一目でわかるくらいはっきりとしている。



北京で生活していて、多くの経験をしてきた。日本と違う点が多くあって、理解できないことも多くあった。だが、それらのことをすべて含めて、とても充実した生活を送れた。

次は、学習面についての述べていきたいと思う。

私がなぜ中国語を選択したかというと、中国語は漢字を使用されていたということが一番

の理由である。

9月2日にクラス分けテストが実施され、7日から授業が始まった。私のクラスは、ポーランド人やイタリア人、デンマーク人、ロシア人、ウズベキスタン人、インドネシア人、韓国人、そして、川俣と細野ともう一人の新潟以外の日本人という構成であった。授業が始まって、ちょっとしたわからないことでも、外国人の人はすぐ先生に質問していた。日本ではまずなかったことなので、驚いた。先生も優しく対応していた。しかし、最初の1.2カ月は正直何を言っているのか全く分からず、戸惑ってばかりであった。先生やクラスメイトに聞いても、優しく教えてくれるが、あまり理解できなかつた。教科書の本文は、すべて漢字で、ある程度は理解できたが、先生の雑談は全く分からなかつた。一番辛かつたのが、先生やクラスメイトが冗談を言った時に、みんなが笑っているが、自分だけ言っていることが、理解できず笑えなかつた時である。そんな時間が続き、11月の初めにあつた中間試験は、あまりいい点数が取れなかつた。特にリスニングが良くなかつた。しかし、時間がたつにつれて、少しずつではあるが、先生やみんなが言っていることが理解できるようになり、誰かが冗談を言っても笑えるようになった。先生にわからないところを質問して、先生が言っていることが段々わかるようになってきた。休み時間には、いろんな国の人と、ちょっとした雑談も出来るようになった。自分の中国語の伸びを感じた時は、とても嬉しかつたし、それ以上に自信がついたことが嬉しかつた。期末テストでも、中間よりも問題が解けるようになった。一番進歩を感じる時は、外に遊びに行った時である。言葉がわかるようになると、自然と会話が増え、買い物などが楽しくなってくる。また、新潟組は、他とは別で太極拳の授業があつた。太極拳とは中国の伝統的な武術である。この授業では、いくつかの太極拳をやつた。また、護身術のようなこともやつた。生活で生かせるかどうかはわからないけど、楽しく受講することができた。最初はうまくいくか心配だったが、日に日に自分の中国語のレベルが上がっていることを感じる事ができた。授業を通して私はわからないことを理解しようとする楽しさを学べた。

次は私が参加したいいくつかの行事について述べたいと思う。

9月12日に、北京師範大学の日本語学科の人たちと交流会をした。向こうの学生は、みんな日本語が流暢なので、難なく会話することができた。私たち新潟組は、日本の食文化の紹介や、歌などを披露した。食文化では梅干を出し、みんな美味しいと言っていた。歌は日本のアニメの歌を歌つた時に、知っている学生が多く、一緒に歌うことができた。そのあと連絡先を交換したりして、初めて中国人の友達が出来た。10月10日は、万里の頂上へ行くツアーのようなものに参加した。今まで、テレビや本でしか万里の頂上を見たことがなく、生で見た景色は、とてもきれいであつた。一部だけだけど登つたが、足場が悪く結構辛かつたが、素晴らしい景色が見れたのでとても満足しました。24日には留学生で作つたチームでサッカーの試合に出た。アジア人とアフリカ人が多く、一度試合前に練習したけど、アフリカ人は個が強く、よくケンカをしてました。だが私は、日本人に足りな

い部分を感じたので、いい刺激を受けることができた。11月7～13日までは四川省という場所へ行くツアーに参加しました、小学校訪問や鄧小平の地などの多くの観光地を回ってきました。食べ物は辛いものが多く、とてもおいしかったです。行動班も自分以外みんな外国人だったので、多くの友達ができました。12月5日は北京の夜という行事に参加しました。北京の夜はいろいろな国の人たちがそれぞれの出し物をするというものです。日本人はよさこいをしました。私も参加する予定だったけど、腰を痛めてしまい、参加できませんでした。10月の下旬から練習を始め、多くの時間をよさこいの練習に費やしていた分、とても良いものを披露することができた。また、北京の夜を通して、多くの友達を作ることができた。



最後に、私は4カ月という限られた時間で、多くのことを学ぶことができた。中国語の勉強はもちろん、中国語以外にも、異文化理解なども学べた。そして、学生寮に入り、自分の生活力の甘さを感じました。そして中国へ一緒に行った12人は、辛いことや大変だったこと、困ったことなどがあつたら、お互い助け合って、いろいろなことをみんなでも乗り越えてきた。私は一緒に行った仲間の中に信頼関係ができたと考えている。そして、2016年2月5日の帰国報告会で佐々木学長から頂いたお言葉「体験を経験にする」ようにします。私は北京でたくさんの人と出会い、多くの刺激を受けました。留学に迷っていた時期もあつたが、今は行ってよかったと思っている。私はこれからも中国語をもつ

と勉強して、また中国へ留学したいと考えている。そして、世界で活躍できる1人の人間を目指します。謝謝中国。

